



10/23 5年 稲の脱穀

やってみてわかった！「機械ってすごい」

秋晴れの中、5年生が稲の脱穀作業に挑戦しました。まずは、稲作の師匠（地域学校共働本部長）から機械の使い方や注意点を教えていただき、実際に脱穀機を使って作業開始。子どもたちはてきぱきと動き、自然と役割分担をしながら、協力して作業を進めていました。

機械での作業はあっという間に終了。しかし、地面にはたくさんのもみが落ちていることに気づいた子どもたちから「もったいない！」「これ集めたら何食分かになるよ」との声が。その言葉通り、みんなで地面に落ちたもみを一粒ずつ拾い集める姿が見られました。



その後は、集めたもみを使って手作業での脱穀にも挑戦。手で一粒ずつ取る作業は予想以上に大変で、子どもたちは「もっと簡単にできる方法はないかな？」と考え始めました。ザルやゴマすり器、ターフマットの隙間など、身近な道具を使って工夫しながら、自分たちで“脱穀の道具”を生み出していく姿はまさに探究学習そのもの。

「機械ってすごい！」「昔の人は、こうやって工夫してきたんだね」といった声があがり、便利さの裏にある知恵や努力に思いを馳せる時間となりました。農家の方からは、もみを落とさない稲の刈り方や束ね方の工夫についても教えていただき、子どもたちの学びはさらに深まりました。

子どもの中から、「機械でやるとただ入れて待つだけだけど、手作業でやるともっといい方法はないかって考えることができる。それでいろいろな方法を試して、いい方法が

見つかる。昔の人もそうだったんだろうね。」というつぶやきが寄せられました。自分の手でやってみることで、知識だけでなく“気づき”と“感謝”が育まれた貴重な体験となっています。

